

QOL

No.30

サポーター 新潟

Quality Of Life



10月7日(日)・8日(月・祝)、本学にて伍桃祭(大学祭)が行われました。今年のテーマは、「message～伝えたい、今の想い～」。当日は学内外から約3,600人をこえる多くの方々にご来場頂き、さわやかな秋晴れの下、キャンパスのいたるところで多くの笑顔が見られる大変賑やかなイベントとなりました。

INDEX

- 世界に開かれた大学院の紹介
- 新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科
- 国際交流のWA!
- 「第12回新潟医療福祉学会学術集会」開催報告
- 平成24年度「連携総合ゼミ」開催報告
- 学外実習体験記
- クラブ・サークル紹介
- CAMPUS NEWS
- 伍桃祭を終えて
- 受験生のみなさんへ



新潟医療福祉大学

2012年12月10日発行
新潟医療福祉大学広報委員会編集

世界に開かれた 本学大学院の紹介

保健・医療・福祉・スポーツ分野の総合的な大学院として、アジアでトップクラスに位置付けられることを目指している本学大学院。その取り組みや今後の展望などを大学院医療福祉学研究科研究科長 村山 伸子先生に語って頂きました。



医療福祉学研究科 研究科長
医療福祉学専攻(博士後期課程)専攻長/教授
村山伸子 Nobuko Murayama

■担当科目 (修士)健康栄養学特論、健康増進学演習、特別研究、(博士)地域・国際保健福祉学特殊講義、地域・国際保健福祉学特殊演習、地域・国際保健福祉学特殊研究
■専門分野 ヘルスプロモーション・地域栄養学、栄養生態学・国際栄養学
■学位 修士(栄養学)、博士(保健学)

■過去の経歴

女子栄養大学栄養学部 助手、東北大学大学院医学系研究科 専任講師、
コーネル大学人類生態学部 客員研究員、新潟医療福祉大学医療技術学部 助教授
■現在の所属団体・学会等
日本公衆衛生学会 評議員、日本栄養改善学会 評議員、
日本健康教育学会 評議員・編集委員、日本栄養・食糧学会 等

他大学からも注目される本学大学院

本学大学院は、平成17年度に開設され、修士課程と博士後期課程があります。これまでに100名以上の大学院生を保健・医療・福祉・スポーツ領域のリーダーとして輩出してきました。

3つの改革

本学大学院は、受験者も年々増加しており、他大学からも注目されていますが、この背景には、数年来実施してきた3つの改革があります。

1つめは、2011年度までに修士課程の教育内容の見直しを行い、育成する人材別に下記の3つのプログラムに整理したことです。

- ①「教育研究者プログラム」
- ②「高度専門職業人プログラム」
- ③「国際協力機構(JICA)・新潟医療福祉大学大学院連携青年海外協力隊等プログラム」

2つめは、学びやすい環境支援として2012年度に修士課程の特待生制度を開設したことです。

そして3つめは、教員が指導しやすい環境づくりとして、研究科長裁量研究費を導入し大学院生の研究費としたことなどです。

このように、現在も発展中である本学大学院ですが、目標である「アジアNo.1」になることへの寄与が期待されています。そこで次に、世界に開かれた大学院としての取り組みについてご紹介します。



院生研究室の様子

世界に開かれた大学院の取り組み

1) 国際的レベルの研究成果の発信

博士後期課程では、国際学術雑誌掲載論文があることが博士論文提出の条件となっており、本学大学院の特徴の1つといえます。また、英語での論文作成セミナーなどを実施し、大学院教員と大学院生との共同研究も多く、発表も英語で行われています。

2) 国際協力に携わる人材を育成

保健・医療・福祉・スポーツ領域で、国際協力に携わる人材を育成するため、国内で初めて国際協力機構(JICA)と連携し、ボランティアをしながら大学院で学べる青年海外協力隊等プログラムを開始し、2012年に1期生4名が入学しました。現在、ニカラグア、タンザニア、エジプト、ミクロネシアで青年海外協力隊として活動しながら本学大学院生として研究を行っています。



写真提供協力:小林容子さん(平成24年度入学 保健医療福祉政策・計画・運営分野)平成22年度3次隊/エジプト/障害者支援

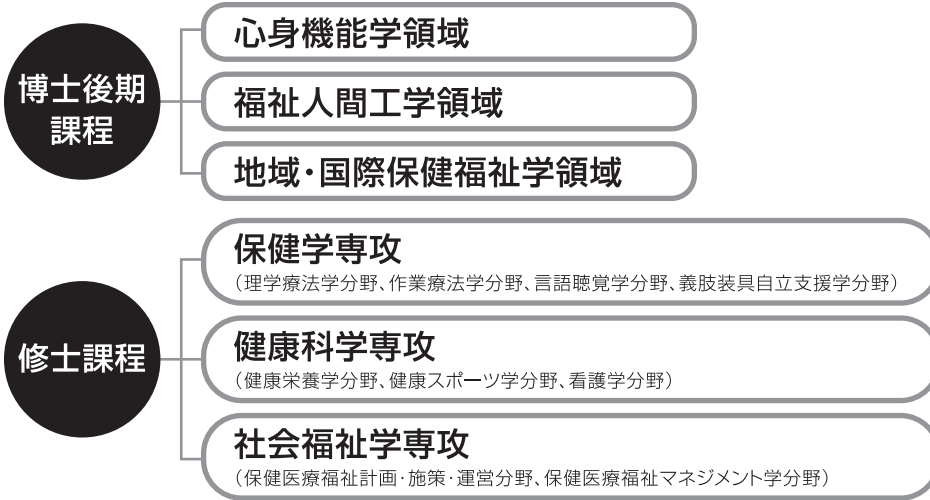
3) 留学生の受け入れと海外で活躍できる人材の育成

本学大学院では、現在台湾からの留学生が義肢装具について学んでいます。彼らは、自国で義肢装具の研究教育者になることが期待されています。2012年度より大学院教員が英語で教育する手法を学ぶ研修も開始しました。大学院紹介用の英文冊子や英文ホームページも公開しており、海外からの問い合わせも増えています。今後も留学生は増加することが見込まれます。

今後も、アジア地域で保健・医療・福祉・スポーツ領域の研究拠点となること、国際協力に携わることのできる人材を育成すること、現地の高等教育機関を支援し、教育研究者を育成することを目標に、邁進して参ります。

新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科

高度な専門知識や専門技術、問題解決能力を修得し、次代の保健・医療・福祉・スポーツ分野を担う、研究者・指導者・高度実践専門職業人を育成しています。



キャリアアップを目指す! 高度専門職業人プログラム

既に国家資格を有している方が、さらに専門的で高度な技術や知識の修得を目指す、または各種職能団体などによる専門職資格の取得を目指し、かつ修士の学位取得もできるプログラムです。

●がん看護専門看護師 (CNS)コース

がんの病態生理学や看護理論・援助論および化学療法とターミナルケアに重点をおき、がん看護専門看護師として必要とされる高度な実践能力の修得を目指します。

●臨床徒手理学療法学コース

現場での実習を含む、より実践的な内容を主とし、かねてより臨床で働く理学療法士からのニーズが高かった現場で役立つ高度な知識と技術の修得を目指します。

●臨床栄養専門コース

病態栄養専門師、糖尿病療養指導士、静脈経腸栄養学会サポートチーム専門療養士の資格取得を念頭に、臨床現場において活躍できる管理栄養士を養成します。

平成25年度
開設

更に、認定社会福祉士の単位取得に結びつくカリキュラムを平成25年度に開講予定。(認証機構申請中)

修士課程学費減免特待生 (第二種)

●対象者……人物および学力が優秀で経済的に修学が困難な方

●採用人数…5名(第二種のみ)

●選考方法…書類審査

●応募時期…出願時 (応募書類は入試事務室へご請求ください)

■一年時 学費例
(第二種/本学卒業生の場合)
保健学専攻、健康科学専攻
(健康栄養学分野・看護学分野)

	減免前	減免後
入学金	100,000円	0円
授業料	800,000円	575,000円
施設設備金	200,000円	100,000円
合計	1,100,000円	675,000円

追加募集決定!!

平成25年度 入学選考試験 スケジュール	第2次募集		第3次募集		
	出願期間	平成24年12月25日(火)～平成25年1月15日(火)	平成25年2月4日(月)～平成25年2月19日(火)		
	試験日	平成25年1月26日(土)	平成25年3月2日(土)		
	合格発表日	平成25年2月1日(金)	平成25年3月8日(金)		
	入学手続期間	合格発表日～平成25年2月15日(金)	合格発表日～平成25年3月22日(金)		

お問い合わせ先 **E-mail** grnyuusi@nuhw.ac.jp

どんどん広がる international exchange ✈

国際交流のWA!

これからの保健・医療・福祉・スポーツを「創造」し、豊かな感性と幅広い視野を身に付けることを目的に、開学以来、積極的に国際交流を進めてきました。その国際交流の一部をご紹介します。



JICA研修

平成24年10月18日(木)～11月16日(金)の期間、独立行政法人国際協力機構(JICA)の要請を受け、キリバス、ツバル、パラオ、フィジー、マーシャル、バヌアツの6カ国から研修員を受け入れ、生活習慣病予防に関する研修を行いました。本学は保健・医療・福祉・スポーツの総合大学として、生活習慣病予防に必要な看護学、栄養学、運動指導、リハビリテーションのすべてに関する教育・研究を実施していることから、大学として日本で唯一、研修実施機関として選定され、JICA受託事業として研修員の受け入れ、学内外での研修を行っています。



◆PICK UP! 実施プログラム

「健診と結果の診断方法」と「集団健診の視察」

看護学科 准教授 宇田 優子

「健診の方法」では、WHOが南大洋州に配布しているNCDキットの医療機器などを使用して、「身長」「体重」「BMI計算」「腹囲、ウエスト・ヒップ比」「血圧」「視力」「血糖値」の7項目の健診を行いました。健診内容は基礎的ですが、指導者として健診を正確に行えるよう知識・技術の再学習の機会になったようです。

更に、胎内市の特定健診を視察に行きました。受付→問診→身長・体重測定などスムーズな流れと保健師の住民に対する親切で丁寧な対応に非常に驚き、住民への接し方や対応方法を考え直したいという感想があり、大きな収穫を得た視察でした。



運動習慣定着を目指した運動指導教材の作成

健康スポーツ学科 講師 佐藤 大輔

生活習慣病の一次予防としての運動実践を促す教育プログラムの教材を作成しました。研修員は二つのグループに分かれ、子ども用と成人用、二種類のDVD教材を作成しました。今回の教材作成では、研修員自身が自国で活用できる内容にすることを目指したため、研修員自身に教材の内容、タイトル、指導内容、DVDのレイアウトなど細部に渡って考えてもらいました。自分で考え、出演し、作成した教材であるからこそ愛着がわき、帰国後の活動も積極的に行ってくれるであろうと思います。研修員の今後の活躍が大いに楽しみであります。



お国自慢料理バイキングと栄養教育教材の作成

健康栄養学科 教授 村山 伸子

自分の食事の適量とバランスを理解するための体験学習の方法を修得すること、および栄養教育の教材作成の基本的スキルを身につけることを目的に本プログラムを実施しました。内容は、研修員が自国料理を作り、まず食べただけ食べてみて、その後、食べた量をチェックし、自分の必要な量と比べ、過不足を考えます。研修員は、久々の自国の料理を学生と一緒に作って食べて大喜びでした。成果として、自国の子ども向け、成人向けに、1食の適量でバランスよい食事例を示すリーフレットを作成できました。



モニタリング評価

医療情報管理学科 教授 瀧口 徹

各研修員が立案した生活習慣病対策と、その一部である健康診査法の定期的な評価(モニタリング)と最終評価の手法の研修を行いました。評価法はJICAのフォームを基本とし、基礎となる疫学・統計の学習も合わせて行いました。

全ての研修員が評価の意義と手法の習熟の必要性を強く認識するに至りました。ですが、技術の取得には時間が不足していたようで、研修員の希望を受けて帰国後個々の相談に応じることとしました。



今年度のJICA研修では、上記以外にも学内での各種研修プログラムのほか、新潟県庁や新潟市役所への表敬訪問、病院見学、新潟市教育委員会や小・中学校など地域との交流、新潟観光など、さまざまなプログラムを実施しました。研修終了後も教員が現地に赴き、フォローアップを行うなど、継続的に評価を行う予定となっています。

「第12回新潟医療福祉学会学術集会」開催報告

新潟医療福祉学会は、本学が設立されると同時に、本学を中心にした新潟県内の健康と医療福祉に関わる職業を専攻されている人たちの研鑽の場として立ち上げられました。また、個々の職能者のみを対象とする学会ではなく、健康と医療と福祉に関連したすべての職種の人たちを対象にした幅広い職能者が集う貴重な機会として、情報交換しながら、「チーム医療」を実感できる場にもなっております。

今年度は、10月20日(土)、本学キャンパスを会場として、特別講演および鼎談、一般演題49題(口頭発表6題、ポスター43題)、一般演題が行われ、会頭賞、奨励賞の表彰などが行われました。

テーマ・プログラム

【テーマ】

「保健・医療・福祉・スポーツにおけるITの活用可能性」

【特別講演】

「医療情報からみた病院の現状と今後の展望」 赤澤 宏平(新潟大学医歯学総合病院 医療情報部 教授)

【鼎談(三者シンポジウム)】

「病院における医療情報管理の動向について—新潟県の立ち位置を考える—」

1. 新潟県における医療情報管理の現状について 瀧口 徹(新潟医療福祉大学 医療情報管理学科 教授)
2. 医療の質の向上に貢献できるしくみとは? 赤澤 宏平(新潟大学医歯学総合病院 医療情報部 教授)
3. 診療情報の標準化とこれからの診療情報管理士の役割

麻生 玲子(健康保険医療情報総合研究所 DPCセンター、データマネジメントセンター・ゼネラルマネージャー)

鼎談概要

病院における診療情報管理士、医師事務作業補助者(ドクターズクラーク、メディカルクラーク等)、および診療報酬請求事務者などの職種の現状と需要予測に焦点を合わせた議論が、フロアを交えて深められました。

平成15年度から導入され急速に普及してきているDPC方式(診断群分類包括評価)、および平成20年度から導入された医師事務作業補助加算の2つを指標として関東甲信越、北陸、東北における普及状況が瀧口教授により比較されました。いずれも首都圏に集中し、特に医師事務作業補助者の確保は首都圏の病院においては競争が起きている点と、長野県の県平均が最も高い傾向があることが注目されました。他県と比して新潟県の反応が遅い傾向が示されたことを受け、その原因について先駆的な傾向を好まない新潟県の県民性、問題関連病院の整備状況の問題などが指摘されました。

麻生先生の講演では、我が国の診断群分類・DPCシステム導入の背景と開発の基本的考え方および仕組みを分かり易く解説され、これからの診療情報管理業務がカルテ管理、個人情報保護、臨床などへの利用、医療安全、および経営戦略に拡大することが示されました。



皆様のご支援とご理解のもと無事集會事務局の大任を果たすことができましたことをあらためてお礼申し上げます。次回の第13回学術集會は臨床技術学科の追手塚学科長を会長として開催される予定です。来年度も多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

平成24年度 連携総合ゼミ 平成24年9月10日(月)~14日(金) 開催報告

「連携総合ゼミ」とは、本学の特徴的な取り組みのひとつである「連携教育」の一環として、4年次前期に開講されるゼミで、これまで学内外で修得した専門知識・技術を総動員し、チーム医療などを実践的に学んでいきます。ゼミでは具体的な症例をもとに、関連する学科が混成でグループを形成し、グループワークを通じて対象者のQOLの向上に向けた具体的な支援策を意見交換し、検討結果を発表します。

本年度の「連携総合ゼミ」では、新潟薬科大学、日本歯科大学、フィリピンのアンヘルズ大学の学生が、本学学生と一緒にチームの一員となり、その学びに加わって頂きました。

Report. 1

過疎地の介護予防事業の展開

担当教員代表 講師 能村 友紀

本ゼミは「高齢化率34%の過疎地の介護予防事業の展開」をテーマとして、新潟県関川村の介護予防事業について検討しました。参加学生は理学療法学科、作業療法学科、義肢装具自立支援学科、健康栄養学科、看護学科、社会福祉学科の合計8名でした。

本ゼミの特徴は、実際に関川村へ実地調査に出かけて、地域を理解し、職員と介護予防事業に参加されている高齢者へのインタビューを通して課題分析を行い、介護予防事業のプログラムを立案することです。

実地調査の事前学習として、関川村の地域の現状や介護予防施策の現状を文献により理解し、村職員と介護予防事業に参加されている高齢者にどのようなインタビューを行うのかを話し合いました。関川村への訪問当日は、関川村地域包括支援センターを見学した後に介護予防事業が行われている施設にて、参加されている高齢者にインタビューを行いました。学生は担当している職

員と参加されている高齢者から地域生活の実態や生活機能低下の関連要因についての話を伺い、現実の課題を目の当たりにした様子でした。短い時間ではありましたが実際に話を伺えたことはとても有意義でした。また関川村村長から関川村の過去・現在・未来について講話を頂く機会にも恵まれ、高齢者施策について考える機会を得たことは、とても貴重な体験となりました。

最終日の発表に向けてのグループワークでは、実地調査から得た情報を整理して現実的な介護予防プログラムについて話し合いを重ね、各学科の専門職の特徴について理解を深めて各職種で実行可能なプログラムを立案することができました。今回の成果の一つとして、訪問させて頂いた介護予防事業の高齢者に向けた運動プログラムのDVDを作成して寄贈させて頂きました。本ゼミにより多職種間で検討した経験を卒業後の臨床に活かして欲しいと願っています。



参加学生からの感想・コメント

- 実際の事例を通して考えることで、自分の専門職の役割を再確認するとともに、他の職種での役割を理解し、連携することの重要性が分かり、より具体的な討議ができました。この経験はきっと臨床に出て、チームアプローチを行っていく上でも役に立つと思います。ゼミを受講してよかったです。(理学療法学科 宮越 のぞみ)
- 今回、ゼミに参加して職種ごとで考え方や捉え方が違うことをあらためて実感しました。介入内容を考えた際には、他職種同士でも共通している部分や専門的な部分があり、今後、臨床へ出ていく上で貴重な経験となりました。(作業療法学科 大山 匠)
- ゼミでは問題点の抽出から事業計画を立てるまで、とても大変でした。しかし他学科の学生と意見を交わすことで、いつもとは別の視点から問題点を探ることができ、とても良い経験ができました。(健康栄養学科 湯本 えり子)
- 他学科と1つのテーマに取り組むことで様々な視点からの意見が聞くことができ、自らの向上のためによい経験となりました。あらためて、「連携」の重要性を再確認することができ、他学科との交流も楽しむことができました。(社会福祉学科 田中 亜実)

Report.2

フィリピンの障害者に心を寄せて

担当教員代表 准教授 古西 勇

私たちのゼミでは、本学と国際交流協定を交わしているフィリピン・アンヘルズ大学の理学療法学科の学生2名と教員2名に参加してもらいました。本学学生は、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、義肢装具自立支援学科、健康栄養学科、社会福祉学科の各学科から1名ずつの6名の参加でした。偶然にも、フィリピンの学生も本学の学生も全員女性となり、すぐに打ち解けて和気あいあいとした雰囲気でした。

何語で話したかと、皆さん疑問に思われることでしょうか。フィリピンは英語が公用語の一つで、大学の授業もほとんど英語で行われるため、フィリピンの学生は英語を流暢に話します。本学の学生は!?と、自分だったら英語が苦手だからと心配される人もいるかもしれません。大丈夫です。キャッチボールの感覚、異文化を尊重する気持ちがあれば、相手に通じるものです。

フィリピンの教員2名は、学生たちが困った時にアドバイスをくれました。また、発表会の前日には、手間のかかるフィリピン料理を昼食の一品として作ってくれました。学生たちは一緒ににおにぎりを作り、楽しい食事会となりました。

1週間のゼミ活動を通じて学生たちが議論したのは、フィリピンの地方に住む障害のある人をモデルとした支援策についてです。フィリピンは貧富の格差があり、今回のモデルの人の家庭は、生活に困窮した状態にあり、車椅子一つ手に入れるだけの経済的余裕もないというのが現実です。学生たちにはその現実を直視してもらい、公的な支援に限られる中で自分たちならどうするかを考えてもらいました。

そのような難しい課題でしたが、学生たちは一致団結して、それぞれの立場から、役に立ちたいという想いを具体的な支援策の提案としてまとめました。パワーポイントは、トロピカルな色彩とアニメーションを駆使した力作となり、日本語と英語を併記した内容は彼らがお互いに共有した時間を反映したものでした。

帰国後しばらくして、フィリピンの教員からメールが届きました。今回のモデルとして情報を提供して頂いた障害のある人へ、教員たちから車椅子を寄贈したとの報告でした。その報せを受けて「よかった」と自分のことのように喜べる学生たちの素直な感性は貴重なものだと感じました。



参加学生からの感想・コメント

- 今回のゼミでは、英語でのディスカッションや、海外の学生に対して実際に治療して見せたりと、本当にアグレッシブなものでした。最後にはとても大きな達成感と、知識と、たくさんの思い出ができ、とても有意義で楽しかったです!!(理学療法学科 木村 奈保)
- フィリピンの症例を検討することで、日本では当たり前だと思っている点を現地はどう変化させ支援できるのかを考えることができました。昼食も楽しく英語に触れることができ英語に興味がある人にお勧めです!(言語聴覚学科 鈴木 瑞穂)
- I have learned how important the roles of each profession in improving the quality of life of a patient. I admire my group mates because they really made effort in speaking in English for us.
患者様のQOL向上にそれぞれの職種の役割がどれだけ重要かを学びました。私たちのために英語で話す努力を惜しまずしてくれた仲間たちを賞賛します。(アンヘルズ大学理学療法学科 学生 Maria Therese Celine T. Montoya)
- I was very happy to work with the other students from different courses who were willing to learn and were very cooperative the whole time. I would love to work with them again in the future.
いつも学ぶことに意欲的でとても協力的な、異なる学科の学生の皆さんと活動ができてとても楽しかったです。できることなら将来、また皆さんとぜひ活動したいものです。(アンヘルズ大学理学療法学科 学生 Raquel Anne M. Raquidan)

平成24年度 連携総合ゼミ事例一覧

- 高齢化率34%の過疎地の介護予防事業の展開
- 脳性まひ(疑い)児と育児不安をもつ母親への成長・発達支援
- 女子高校生競技者のFemaleAthleteTriad
(食行動異常、無月経、骨粗鬆症)(競技系)
- 中高年のメタボリックシンドロームの改善(健康系)
- 筋萎縮性側索硬化症(ALS)ケースの在宅療養実現への支援
- 私も町のような人になりたい(精神科領域)
- 大阪市における小学生虐待死事例の検証
- 切迫早産・妊娠高血圧症候群で入院が必要になった妊婦への援助
- 開発途上国における村のヘルスケアと障害のある人々へのリハビリテーション
- 高齢者糖尿病合併症の支援策
- 失語症状の認められる対象者の医療・福祉の統合
- 発達障害児の特別支援教育における外部専門家との協力
- 重度四肢まひ者の家族復帰計画



学外実習体験記

本学では今年度、9学科が学外実習を行いました。

各専門職として高い実践力を身につけることを目標とした学外実習の成果を報告します。

臨床実習で学んだこと

理学療法学科 3年 正木 友佳子



私は、千葉県の老人保健施設にて3週間の評価実習を行わせて頂きました。今回の実習では中枢神経系疾患を持つ患者様を担当させて頂きましたが、実際に患者様に対して行う検査・測定は、障害によって教科書通りに進まずに戸惑うことが多くありました。また得られた複数の検査結果の解釈も上手く行うことができず、実習期間中は臨床の現場で行う評価の難しさを強く感じました。

しかし、実習指導者から様々なアドバイスを頂くことで無事に評価を進めることができ、同時に患者様と接する際の姿勢や得られた評価結果をもとにした多様な解釈・理学療法評価の重要性を学ぶことができました。毎日のリハビリや集団体操を通じて患者様との距離が徐々に縮まっていくことを感じながら、豊富な知識と高い技術力を持つ実習指導者の下で実習期間を過ごし、自分も将来こんな理学療法士になりたいと今まで以上に強く思いました。今後は、今回の実習で指摘された点と自分なりに感じた課題を改善するとともに、毎日の学習を励み知識・技術力を高め、4年次の総合実習では患者様に最良のアプローチができるように努めていこうと思います。

高齢期障害領域で活躍したい! ~想いが明確に~

作業療法学科 4年 笹川 絢菜



私は村上市にある介護老人保健施設杏園で2ヶ月間、実習をさせて頂き、作業療法士の専門性はもちろん、他職種との連携の重要性を教えて頂きました。

実習中には、辛いこともありましたが、実習指導者からの「今が頑張り時!」という言葉に何度も励まされました。私の不注意で指導を受けた時は、自分の考えが甘かったこと、気づけなかったことに対する悔しさと利用者様に申し訳ないという気持ちが込み上げ、実習指導者の前で涙してしまいましたが、その時も「悔しい思いをして強くなっていくから」と励まして頂きました。



実習最終日、認知症の利用者様に、一緒に撮った写真と手紙をプレゼントすると「忘れないよ」と涙を流しながら別れを惜しんでくださって、実習生として少しでも意味のある関わりができたのではないかと感じることができました。このような経験により、臨床の楽しさや厳しさを感じ、高齢期障害領域で活躍したいという想いがより一層明確になりました。

また、先日念願であった杏園から就職の内定を頂きました。今まで支えて頂いた方々に感謝し、一人ひとりのQOLを支援できる作業療法士として成長していきます!

患者様の言葉が原動力

言語聴覚学科 3年 若杉 美華



私は3週間、信楽園病院で評価実習をさせて頂きました。初めての評価実習で感じたことは、知識不足です。教科書で学んだことと実際の患者様の症状を一致させることができず、自分の知識の乏しさに愕然とし、今まで私が持ち合わせていたものは単なるペーパー知識で、活きた知識は持っていなかったと痛感しました。

また、実習中はたくさんの患者様と関わる機会を頂きましたが、理解が難しい患者様やうまく言葉を発せられない患者様とコミュニケーションをとることは容易でなく、どうしたら患者様とコミュニケーションがとれるのが模索する毎日でした。けれども、患者様と関わる中で、患者様から頂いた「頑張りてね」「あなたともう一度お話したかった」という言葉は、とても嬉しく励みとなり、実習を乗り越える原動力となりました。

この実習を乗り越えられたのは先生方、先輩方、両親、そして同じ学科の仲間を支えたからだだと思います。来年の総合実習までに、知識不足の克服をするとともに、より良いコミュニケーションがとれるよう成長し、総合実習も学科の仲間たちと支え合い頑張っていきたいです。

自分らしく進んでいきたい

義肢装具自立支援学科 4年 秋場 周



今回、義肢装具製造販売企業にて4週間の臨床実習をさせて頂きました。実習では会社での製作実習と病院での営業業務の両方を、アドバイザーの方にマンツーマンで指導して頂きました。

実習を通して、義肢装具を製作する際には、利用者様に着けて頂く義肢装具の完成形を頭の中でイメージし製作をしていかなければ、本当に満足できるものができないこと、利用者様や他職種との関わりを「見習う」ことの大切さと難しさをあらためて実感しました。更に、失敗をした時には、なぜ起こったのか、その原因はどこにあるのかを考え、次に活かしていく姿勢が大切だということも学ばせて頂きました。今回の実習は、自分の未熟さを見直すきっかけにもなったと感じています。4週間という期間でしたが、アドバイザーから教えて頂いたこと、自分自身で考えたことを意識して、より一層勉学に励んでいきたいと思っています。そして、いつも素直に正直に、周りへの感謝を忘れずに、自分を支えてくれている方々への恩を周りの人たちへ還元していきながら自分らしく進んでいきたいと感じています。



信頼関係を築ける管理栄養士に

健康栄養学科 3年 阿部 英里香



私は、湯沢町保健医療センターで3週間実習をさせて頂き、管理栄養士をはじめ、調理士や先生方、多くの職員の方々に指導して頂きました。実習では、保健指導、褥そう回診、嚥下造影検査など病院管理栄養士の活躍している場を見学させて頂くほかに、研究会・勉強会への参加、食事の介助などを経験させて頂きました。



今回の実習を通して感じたことは、病院の管理栄養士の役割は多岐に渡っており、様々な専門的知識と技術を持つことが必要であるということです。また、適切な栄養サポートを行うためには、管理栄養士だけでは不可能であり、患者様のご家族や他職種の方々や地域の施設との連携があってこそ、患者様のQOL向上に繋がるということを学びました。そのため、管理栄養士は想像以上に人との関わりの多い仕事であり、多くの人と信頼関係が築ける様なコミュニケーション能力を身につけることが必要であると実感しました。

どのような職場や対象者においても、相手の気持ちを考え、信頼関係を築いていけるような管理栄養士になりたいです。そのためにも、今回実習で学んできたことを忘れずに、より一層勉強に励んでいきたいと思っています。

教育実習を終えて

健康スポーツ学科 4年 渡邊 あかね



私は、「運動が苦手な生徒にどういった言葉掛けやコミュニケーションでアプローチをしていくか」ということをテーマに、出身中学校で3週間の教育実習をさせて頂きました。

学級全員が満足できる授業を作り上げることが、とても難しく感じましたが、実習校の先生方がどのように接しているかを観察していくうちに、私が「保健体育の授業」という枠組みだけで考えていたから難しかったのだということに気付きました。生徒全員が同じように進むことが難しい教科だからこそ、授業以外でも生徒とコミュニケーションをとることの重要性を学びました。また、授業で使用する用具について、実習校の先生方がされていた用具の使い方はとても新鮮でした。例えば、三角コーンを目印として置くだけでなく、倒して向きを変えるなど、少しの工夫で使い方が無限に広がるのです。保健体育教師は、まさに「日々挑戦」「アイデア勝負」の職業であると実感しました。

教育実習中、失敗や反省があるたびに改善策を考えたり、同じ失敗をしないように気を付けたりしました。この経験を社会で活かせるように、私自身、挑戦や努力を継続していきたいです。

患者様との握手が忘れられない

看護学科 2年 會澤 藍



8日間の基礎看護学実習IIにおいて、高齢の循環器疾患のある患者様を担当させて頂き、療養生活の援助をさせて頂きました。授業での学びとは異なり、症状が日々軽快していく様子が実感として理解できました。前日に立てた計画がまるで見当違いになることもあり、援助の計画を何度も修正することもありました。柔軟に的確な援助を行えるようになるには経験も大事ですが、経過の予測が立てられるように大学での日々の学びが重要であることを再確認させられました。

また、病棟指導して頂いた看護師の方や、毎日同じ病棟を担当している5人のクラスメイトと行ったカンファレンスの中での学びも大きなものでした。1人で直面した看護の問題に対して、5人で意見やアイデアを出し合いアプローチしようと試行錯誤することで、学びが深まる体験をしました。

担当させて頂いた方には、知識、技術ともに未熟な私たちを受け入れてくださり、最終日には「頑張っってね、応援しているからね」と力強く握手をして頂き、早く現場に立てよう一生懸命学びたいと強く感じました。

誠実に耳を傾けて

社会福祉学科 3年 長谷川 香菜



私は新潟市東区の新潟市東区社会福祉協議会で、約1か月間の実習をさせて頂きました。実習プログラムは、社会福祉協議会が取り組む様々な事業について、毎日異なる業務が経験できるように設定されていたため、包括的に理解することができました。実際の業務体験を通して職員の方々や地域住民と交流する機会も多くあり、大学の講義では学びきれない現場を知る貴重な経験となりました。



特に印象に残っていることは、初めての訪問で日常生活自立支援事業の専門員に同行したことです。利用者様の強い希望であった一人暮らし生活を支えるために、複数の機関が関わり連携し、チームとして動いていることを感じ取ることができました。この訪問を通して、相談援助職には幅広い知識だけでなく、信頼関係の構築力、コミュニケーション力、創造力、応用力が求められていることを理解することができたとともに、あらためて福祉現場で働くことのやりがいを感じる事ができました。

今回の貴重な経験を残りの大学生活に活かし、将来は、人の声に誠実に耳を傾けて支援することのできる社会福祉士を目指したいと思っています。

2つの病院で深く学びました

医療情報管理学科 3年 阿部 翼



私は、9月に妙高市にある県立妙高病院と長岡市にある立川総合病院で1週間ずつ実習をさせて頂きました。県立妙高病院では主に医療事務とクラーク、立川総合病院では主に医療秘書と診療情報管理士の業務を経験することができました。また、各病院では放射線科や薬剤部など複数の科からの視点で、検査や処方のおーダの流れや検査結果の管理方法を見学させて頂き、医療情報分野に関して広く学ぶことができました。

今回の実習で特に印象に残っているのは、実際にカルテを見ながら病名や医療行為についてのコード付けを行ったことです。大学で学ぶ講義のテキストや問題集と違い、病名や医療行為をカルテに綴じられている検査結果などを参照しコード付けしなければならないものもあり、医学用語や略語についての知識がなければ読解できないものもあり、自分の知識のなさを痛感しました。

2月に診療情報管理士の資格試験がありますが、実習で経験したことを活かし、これからも日々資格取得に向け勉強していきたいです。最後になりますが、指導して頂いた実習指導の方々、病院スタッフの方々には大変感謝しています。ありがとうございました。

クラブ・サークル紹介

大学生生活の醍醐味ともいえるクラブ・サークル活動。本学には、たくさんのクラブ・サークルがあり、実に10人に6人はクラブ・サークルに所属しています。今回は、体育系部活、文化系部活、サークル系、ボランティア系、4つのクラブ・サークルをご紹介します。

男女混合サッカーサークル

サークル系

男女混合サッカーサークルは、現在約50名で週に2日程度、活動を行っています。サッカーサークルというものの、経験者は少なく部員のほとんどが初心者で、学内の体育館でフットサルを行っています。フットサルは、サッカーとは異なり室内で行うため、天候に関係なく、コートが小さく試合展開も速いため、女子にもとても人気があり、気軽に楽しく活動しています。また、学校の行事にも積極的に参加していて、毎年出店する大学祭の模擬店では、今年はぼっぼ焼き風お菓子を作りました。このような様々な活動を通して、他学科の学生と親睦を深め、かけがえのない仲間となっています。今後は、社会人のフットサルチームとも試合を行い、社会人の方と一緒に活動をする事で、更にコミュニケーションの輪を広げて交流を深めていきたいと思ひます。



(健康栄養学科3年 石山 愛)

バドミントン部

体育系

バドミントン部は、部員数約110名で、毎週月・水・金曜日に体育館で活動しています。現在、北信越リーグで男子は2部、女子は1部に所属しており、男子は1部昇格、女子は1部で優勝することを目標に日々練習に励んでいます。リーグ以外にも各種大会に積極的に参加しており、とても充実した部活動を行っています。また、練習は自主的に行っているので学業と両立し易く、多学得多学年にわたって部員が所属しています。コーチや監督がいないので自分たちで活動を計画実行しています。そのため大変な時もありますが、多くの仲間たちに恵まれ、先輩後輩の上下関係もなく仲良く、とても楽しく活動しています。今後も目標に向かって努力していきますので、応援よろしくお祈りします。



(健康スポーツ学科2年 黒田 佳祐)

書道部

文化系

私たち書道部は、平成23年に立ち上げたばかりの部ですが、現在18名で毎週火・水・木曜日に、自由に楽しく活動しています。活動場所は学内の講義棟で、書道の基本的な書体を練習したり、各個人の書道課題を練習したりしています。今年の伍桃祭では、部員一同力を合わせて横8メートルにわたる巨大なパフォーマンス作品を制作しました。また、障がい者の方と小作品つくり、特別養護老人ホームで毎月行われている習字教室にて高齢者のサポートをしたり、様々なボランティア活動を行っています。書道部は、部員同士がとても仲良く、休憩時間には漫才のような会話が飛びかたり、学年の垣根無く笑いあったりとてもアットホームな部活です。経験者・未経験者どちらもいつでも見学大歓迎です!お待ちしております!



(社会福祉学科2年 岡田 真理)

学生“Kid's”

ボランティア系

学生“Kid's”の部員数は145名で、月に約1回程度活動し障がいをもつ方と学生が、お互いの壁を越えて一緒に楽しむことを目的としています。学生“Kid's”では障がいをもつ方を“会員さん”と呼び、茶話会や学園祭、クリスマス会、研修旅行などを通して、会員さんの食事やトイレ介助などのサポートを行っています。これらの活動は企画・準備も学生が行っており、他学科の学生と学科の枠を超えて、より充実した活動になるように造り上げています。また日常的な活動として、サロン“Kid's”が経営するお弁当屋さんの、お弁当の盛り付けと販売のお手伝いを行っています。たまに会員さんと一緒にお弁当を販売する時もあり、普段から会員さんとの交流を行っています。これらの多くの活動を通じて、今後も会員さんと学生の親睦を深めていきたいと思ひます。



(作業療法学科2年 田村 祐子)

クラブ・サークル一覧

強化クラブ

- 水泳部
- 陸上競技部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部

体育系

- 軟式野球部
- 準硬式野球部
- 男女バレーボール部
- 学友会サッカー部
- テニス部
- 卓球部
- バドミントン部
- 剣道部
- 弓道部
- フットサル部
- ハンドボール部
- トレーナーズクリニック
- ソフトボール部 など

ボランティア系

- 学生サークル“Kid's”
- レクア.コム部
- ピア・エデュケーションサークル
- 学生ボランティアセンター
- 空飛ぶ車イスサークル など

文化系

- 園芸部
- 茶道部
- 和太鼓部
- 吹奏楽部
- 手話部
- 写真部
- 軽音楽部
- VICON部
- 英語クラブ
- 空オーケストラ など

サークル系

- 男女混合サッカーサークル
- ダンスサークル
- バレーボールサークル
- バスケットボールサークル
- スポーツサークル
- トレーニングサークル
- スノーボードサークル
- 文芸サークル
- サイクリングサークル など



【健康栄養学科】産学官連携による新商品スイーツの販売

NEWS 01

本学健康栄養学科では、北区農業委員会協力のもと、北区の耕作放棄地である畑を活用し栽培した「サツマイモ(品種・シルクスイート)」を、北区松浜にて洋菓子店を営むボンクールSAITO様と共同で商品開発することとなり、9月7日(金)、本学にて新商品試食会を実施しました。

健康栄養学科の学生有志約40名(2・3年生)が、8グループに分かれ、1点ずつ、計8点を試作品として出しました。発表会の日には、ボンクールSAITOオーナーの齋藤様、新潟市北区産業振興課、同じく北区農業委員会の方々など、関係者が一堂に集まって学生のプレゼンテーションを聞きながら試食をし、その後、品評会が行われました。その中で「意外性」「商品開発の工夫」「味としての完成度」などの選定基準から2点が商品化の候補として挙げられました。

協議の結果、タルトの販売が決定し、商品名は「お芋」と「チーズ」を掛け合わせた「おいちーたると」に決定しました。

商品は、10月13日(土)・14日(日)に、アオーレ長岡(長岡市)で開催された「大学は美味しい!!フェアin新潟」にて販売され、大変好評を頂きました。



『第2回新潟医療福祉大学市民講座～「健幸都市にいがた」の実現を目指して～』開催

NEWS 02

10月30日(火)、11月27日(火)の両日、本学生涯学習センター主催による『新潟医療福祉大学市民講座～「健幸都市にいがた」～の実現を目指して』を、新潟ユニゾンプラザにて開催しました。

本講座は、【シニア世代に向けて「大学の知」を発信し、健やかで幸せに暮らせる都市づくりのパートナーとしての役割を期待する】【新潟市に所在する保健・医療・福祉・スポーツ領域の総合大学として、市民の健幸づくりに貢献する】【健康に関する学術的な知識を提供し、市民自ら主体的かつ自律的な健幸づくりの実現に寄与する】ことを目的とし、実施しました。

10月30日の講座では、阿部薫教授(義肢装具自立支援学科)によ

る「足のトラブルと靴選び～足の健康と向き合う～」、近藤あゆみ准教授(社会福祉学科)による「お酒との上手な付き合い方～バランスのよい生活をめざして～」というテーマの講演を、11月27日の講演では、三宮博己教授(健康スポーツ学科)による「見つけて 育てて 活かす～指導者の思考法～」、稲村雪子講師(健康栄養学科)による「健康長寿をめざして～食と向き合う～」というテーマの講演が行われました。両日とも講演後には、受講者の方々からご質問を頂くなど、大変好評な市民講座となりました。

本学では今後もこうした市民講座を積極的に開催しますので、多数の方々のご来場をお待ちしています。

村山伸子教授「第65回新潟日報文化賞(社会活動部門・個人)」を受賞

NEWS 03

11月1日(木)、村山伸子教授(医療福祉学研究科 研究科長/医療福祉学専攻(博士後期課程)専攻長/健康栄養学科教授)が第65回新潟日報文化賞(社会活動部門・個人)を受賞しました。

新潟日報文化賞は、新潟日报社によって新潟県の県勢伸長と県民生活の向上を目的として制定され、新潟県の文化・産業などの発展に貢献した個人・団体を表彰するものです。

村山教授は、NGO日本・バングラデシュ文化交流会のメンバーとして、2009年から、開発途上国であり、調理を伴った温かな学校給食がなかったバングラデシュで学校給食のモデルづくりに取り組み、バングラデシュ初の学校給食システム導入に貢献されました。

同システムでは、学校給食の調理を住民が担当し、学校菜園で育てたカボチャを使用したり、家庭から米や野菜を集めフードバンクを行っ

たりするなど「自立」「持続可能」をテーマに掲げており、新潟県で推進する「地産地消」が取り組みのベースとなっております。

また、本学在学も海外研修としてプロジェクトに同行し、現場でどのようなことを感じ、何が求められているかを考えるなど教育活動の一環としても高い功績を残しております。

今後は、バングラデシュの人々のニーズをデータで示し、政策に反映させられるよう取り組みを続けていく予定です。



平成24年度 保護者会 開催

NEWS 04

11月3日(土)、本学キャンパスにて本学在学生の保護者の皆様を対象とした平成24年度保護者会を開催しました。

保護者会は、保護者の皆様に教育方針や指導体制および学生の修学状況、生活状況、就職活動状況などを説明し、本学の取り組みをご理解頂くとともに、懇談会・個人面談などを通して情報交換を図り、今後の学生の教育に資することを目的として開催しました。当日は、720名と多数の保護者の方々に出席頂き、会場は終日熱気に溢れ、充実した保護者会となりました。

全体会では、後援会会長、学長挨拶の後、本学の特徴的な取り組みである連携教育の「連携総合ゼミ」についての解説および代表学生による発表がありました。

学科別プログラムでは、各学科の取り組み状況を説明した後、懇談会が行われ、その後個人面談という順序で進められました。いずれの

学科も学生の修学や生活に関する内容を中心に率直な意見が交わられました。

今回の保護者会は、保護者の皆様の教育への熱意が強く感じられるとともに、大学にとっては保護者の皆様との連携の重要性をあらためて認識させられた会でした。

保護者会の際のアンケートなどで頂いたご意見・ご要望を検討させて頂き、今後の本学の教育に十分反映して参りたいと考えております。



伍桃祭を終えて

第12回伍桃祭(大学祭)報告

今年の伍桃祭のテーマである、「message～伝えたい、今の想い～」には、友人・家族・諸先生方・地域の方々など、とても多くの人に支えられて生活している私たちにとって、どんな時もお互い支える人がいるから、自分の夢に向かって頑張れるという感謝の想いを、この伍桃祭をきっかけに伝えて、かけがえのない思い出にしたいという願いを込めました。

当日は、FLOWのライブ、池谷幸雄さんの講演会、部活・サークルによる発表、模擬店、Mr.&Ms.NUHWコンテスト、学科対抗パフォーマンス、バルーンアート、子供向けアトラクションなど盛り沢山のイベントを行い、体育館や大講堂から溢れるほどの人にご参加頂きました。昨年に引き続き、地域密着型の大学祭ということに重点を置いて企画しており、今年は過去最高の来場者数を更新することができ、地域の方々をはじめ、多くの人たちと一緒に、最高に盛り上がる楽しい伍桃祭として開催できたと思います。

最後になりましたが、無事に伍桃祭を終えることができたのも、学生や教職員の方々をはじめ、地域の方々や企業の方々など、多くの方にご協力して頂いたおかげです。そして、一緒に企画・運営をしてくれた学友会・伍桃祭実行委員に感謝いたします。ありがとうございました。

第12回伍桃祭実行委員長 阿部 拓也



受験生のみなさんへ

春のオープンキャンパス 3月23日(土)

新2・3年生に向けて、「大学概要・入試概要説明」はもちろん、「施設見学」や「個別相談」「体験コーナー」など様々なプログラムを用意しています。また、保健・医療・福祉・スポーツ分野の仕事内容や資格、養成校の最新情報、大学と専門学校の違いなど、みなさんの進路選択に役立つ情報が満載の「進学総合ガイダンス」など春のオープンキャンパス限定のプログラムも計画しています。どうぞお気軽にご参加ください。



一般入試(前期日程・後期日程)案内

- 「第2志願制度」の活用で、一度の受験で2学科まで受験可能。

※理学療法学科、臨床技術学科、看護学科、医療情報管理学科(後期日程のみ)を第2志願とすることはできません。

- 前期日程では全国8都市、後期日程では全国4都市に試験会場を設置!

(前期日程会場:新潟・東京・郡山・高崎・長野・富山・鶴岡・仙台)
(後期日程会場:新潟・東京・郡山・鶴岡)

- センター試験利用入試との併願可能!

- 前期日程の成績優秀者は、「特待生制度」により1年次の授業料が全額免除!

募集人員

学 科	募 集 人 員	
	前期日程	後期日程
理学療法学科	25名	10名
作業療法学科	13名	2名
言語聴覚学科	16名	2名
義肢装具自立支援学科	13名	2名
臨床技術学科	40名	4名
健康栄養学科	15名	2名
健康スポーツ学科	35名	5名
看護学科	38名	3名
社会福祉学科	35名	3名
医療情報管理学科	20名	2名
計	250名	35名

入学選考試験日程

試験区分	出願期間	試験日
前期日程	1/9(水)～1/23(水) 【消印有効】	2/5(火)
後期日程	2/12(火)～2/22(金) 【消印有効】	3/6(水)

*東日本大震災、長野県北部地震、福島第一原子力発電所事故により被災された方へ

平成25年度入学選考試験において【入学検定料免除】及び【授業料減免】の被災者修学支援措置を講じております。詳細につきましては、入試事務局(TEL:025-257-4459)までお問い合わせください。



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL025-257-4455(代) FAX025-257-4456
URL <http://www.nuhw.ac.jp/>
携帯サイト <http://www.nuhw.jp/m/>
【入試事務局】TEL025-257-4459
E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっております。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポート)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様にも本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

